ノートルダム清心女子大学 BULLETIN

ND BULLETIN

Vol.209
issue
March 2023

［ 特集 ］

第57回大学祭「RESTART」3年ぶり開催

日本語日本文学科創立70周年

清心のクリスマス

総社市と包括連携協定を締結

3年ぶり開催！
第20回カトリック女子大学
総合スポーツ競技大会

聖書の言葉

ぶどうの取り入れをするときは、
後で摘み尽くしてはならない。
それは寄留者、孤児、寡婦のものとしなさい。
あなたは、エジプトの国で奴隷であったことを思い起こしなさい。

――申命記24章21節・22節

ぶどうの取り入れをするとき、すべてを収穫すべきではなく、残しておかなければならないというのです。なぜなら、それは「寄留者、孤児、寡婦のもの」だからです。すなわち、社会的に不利な立場に置かれた人への配慮を求めています。誤解があってはならないのは、温情や哀れみで残すというわけではありません。ユダヤ人自身がかつてエジプトでは奴隷でした。誰もが支え合い、神の豊かな祝福が得られる、そんな社会の姿を示しています。

現代社会では、グローバル化という理由で、企業間でも個人同士の関係でも競争が煽られています。その結果、一部の世界的な企業が大きな利益をあげ、一方では貧困が広がり、社会的な分断の深まりが指摘されています。

聖書では、一人ひとりが神によって創られた者として尊ばれる道が示されています。対立や憎しみではなく、聖書のこうしたメッセージをしっかり受け止めることでこそ、未来を拓くことができると思います。

キリスト教文化研究所（人間生活学科教授）
杉山 博昭

Mini Serialization

Seishin Archives 今に続く清心の歴史をご紹介 第1回新入生合宿オリエンテーションのしおり

1979年度

2023年度（制作中）

1979年度第1回新入生合宿オリエンテーションの「しおり」です。学科ごとにオリエンテーションの企画・運営を担当する上級生が制作したものです。

2022年度に、学科創立70周年を迎えた日本語日本文学科には「しおり」を和綴じで制作する伝統があります。題字は、書道履修者が和紙の題簽に毛筆で書きます。第1回当初から、上級生が一冊一冊心を込めて丁寧に作る伝統は、44年後のいまも受け継がれ、思いの込められた「しおり」が新入生を迎えます。

ノートルダムの風景 新入生を迎える準備 ～新入生オリエンテーション～

2月に入り、新入生がスムーズに大学生活に入っていけるように、大学のカリキュラム、履修方法、大学生活等について説明する新入生オリエンテーションの準備が始まりました。

サポーターの先輩学生が、集まって相談を重ね、歓迎レクリエーションを考え、オリエンテーションのしおりを作成します。入学宣誓式直前には、学生便覧等の資料、クラスフラワーを、学生、教職員が一つ一つ丁寧にセットします。

2023年度入学生のクラスフラワーは、3月卒業生から引き継ぐ「菊」です。

お揃いのパーカーで新入生を迎える先輩学生（日本語日本文学科）

Cover： 大学祭実行委員

総勢66名で結成された大学祭実行委員。2年間コロナ禍で開催されなかったため先輩からの指導や引継ぎが少ないながらも力をあわせて作り上げた第57回大学祭でした。学内外からの来場者も多く、盛況のうちに終えることができました。

ノートルダム清心女子大学 BULLETIN Vol.209
発行 ノートルダム清心女子大学 広報室
2023年3月31日
〒700-8516 岡山市北区伊福町2-16-9
TEL(086)252-3107 https://www.ndsu.ac.jp/

2022年度

第57回大学祭「RESTART」3年ぶり開催

11.5(sat)

コロナ禍で、休止していた大学祭を3年ぶりに開催することができました。総勢66名の大学祭実行委員を中心にクラブ、教職員が一丸となって大学祭を作り上げました。今年のテーマは「RESTART」。2022年度、気持ち新たに駆け出しました！大学祭の様子を、学生広報スタッフSPARKLEの取材とともに報告します。

Restart

大学祭に向けて準備始動！！

総勢66名の委員は1年生が中心。大学祭を経験している先輩の指導が無いなかにも、工夫を凝らし、計画を練っていました。広報パートでは、リーダーを中心に、大学祭特設サイトの進捗状況の報告やパンフレットの形態について協議していました。「何ページ必要か」、「印刷はどこでするか」、例年よりも短い準備期間でできる方法を考え、議論していました。

大学祭オープニングセレモニー！

ひと際映えるオレンジ色のジャンパーを羽織った大学祭実行委員会の学生たちが「RESTART！！」の声で大学祭をスタートさせました。

受付での検温と手指消毒、食事の際の黙食、構内各所に設置された手指消毒剤と除菌シートの利用については、ご来場の皆さまにご協力をいただきました。

取材1

キャンパス内で新たな発見 ～わくわくスタンプラリーを体験～

イベントの一つとして「スタンプラリー」が行われました。順番に大学内を回っていき、スタンプを集めていきました。友達と参加することで、一緒に楽しみながら考えることができました。また、学内にどんな建物があるのか、分かりやすく地図が貼られていました。本学に通っている学生でも知らない場所があることを知りました。大学内にこんな建物があったのだなと、新たな発見がたくさんありました。

取材2

観客を魅了する演奏 －オーケストラクラブ－

オーケストラクラブの皆さんが、大勢の観客の前で、緊張しながらも楽しんで演奏している様子はとても魅力的でした。オーケストラクラブの美しい演奏が大学中に響き渡り、音楽の力によって、大学祭に活気をもたらしてくれました。

取材3

新しい自分を発見できる演劇 －日本語演劇部－

大学祭で公演された日本語演劇部の朗読劇「星の王子様」。公演を鑑賞して、台本の読み方でその光景が思い浮かんできてとても面白いと感じました。照明や声のトーンで舞台の雰囲気が変わっていき、「星の王子様」の世界観に惹き込まれました。公演後の雰囲気からも日本語演劇部の仲の良さが伝わってきました。

そのほかのクラブ、学科、教職員も企画・展示をしました。

大学祭エンディング！

たくさんの方々に支えられ、盛況のうちに終えることができた今回の大学祭は、私たちにとって「RESTART」でした。ここに込められた想いを次に繋げることができるよう、エンディングでは大学祭実行委員一人ひとりがキャンドルの灯りに想いを込めました。

大学祭の様子をご覧になりたい方は大学WEBサイトへ
オーケストラクラブの演奏も聞くことができます。
第57回大学祭「RESTART」ブログ

［取材］
SPARKLE　黒瀬真歩（食品栄養学科3年）、
徳見香菜子（食品栄養学科3年）、三野菜々美（児童学科1年）

特集

学科創立70周年
―日本語日本文学科70年の歴史に育まれた教育と研究の場―

創立70周年に寄せて

日本語日本文学科長　東城 敏毅

本学科は、1952（昭和27）年4月に国文学科として開設されました。1982（昭和57）年から国語国文学科に、1999（平成11）年から日本語日本文学科に名称を変更して現在にいたります。すなわち、2022年は学科創設70周年に当たります。また、大学院は、1995（平成7）年に文学研究科日本語日本文学専攻（修士課程）を、次いで2年後に博士後期課程を開設。博士後期課程が整備されてから、2022年で25年を迎えました。

このように、本学科は、学部から大学院まで日本語・日本文学を研究・指導する体制の充実をはかってきました。本学科では、古代から現代までの各時代の専門家、さらに日本語学・国語教育・書道・司書関係の専門家を揃えています。この体制は全国的にも稀であり、本学科の大きな特徴となっています。また、全国的な女子大学の共学化、また「日本語」「日本文学」を冠した学科名の消失傾向が見られる中、「日本語・日本文学」を前面的に明確に打ち出したことこそ、ミッション系女子大学という枠組みの中で、地域の教育・研究を大きく背負う立場に置かれていると自負するものです。

また、本学の特殊文庫は、様々な古典籍資料を所蔵しています。本学で教鞭をとった故・正宗敦夫氏の収集したものや、江戸時代から明治にかけて国学者として様々な著述を遺した黒川家の代々が収集した資料からなる、全国的にも貴重な一大コレクションです。このような「本物の」資料に直に触れ、学ぶことのできる大学は極めて少なく、全国的にまたとない学びの機会を提供することが可能となっています。

それと同時に、アニメ・マンガ等、サブカルチャーを含む新たな日本文化も研究対象としており、国際化社会において新たな視点から日本文学・日本文化を発信する人材育成をはかっている学科とも言えるでしょう。自国の言葉において、自国の文化・文学を学部から博士後期課程まで充実した高等教育が実施できること、これは、世界的に見ても稀有なことです。その発信を本学においても続けることができていること、また、将来的にも自信をもって発信していくことを宣言しつつ、まずは、2022年、70周年を迎えることができたことを、ここに紹介させていただきます。

日文Archives　―― 国文学科創設と黒川文庫

国文学科（現日本語日本文学科）創設（1952年）に当たり、黒川家の蔵書約1000点、3000余冊を購入し、黒川文庫を設置しました。その購入の際には、第2代学長シスター・エーメー・ジュリーの令姉ミセス・カーがアメリカでダンスパーティを開いて寄付を募りました。また、大学側からも正宗敦夫教授が東京神田神保町の一誠堂書店に泊まり込んで、黒川文庫が他者の手に渡ることを防いだというエピソードが伝えられています。これらの古典籍は、本物だけが有する圧倒的な力で学生たちを、時空を超えた創造の世界に誘います。

黒川文庫『光源氏物語抄』

初代学長の思いを原点に時代とともに歩む

1952年

初代学長シスター・メリー・コスカの「日本人女性に日本文化のすばらしさを認識させる教育を」という理念のもと「国文学科」として誕生。

シスター・メリー・コスカ

1952年

開学にあたり、黒川家の蔵書のなかから、和歌関係を中心とした古典籍を購入。1965年には1958年に逝去した正宗敦夫教授が蒐集した正宗文庫の蔵書の一部、約400冊が、正宗敦夫文庫として本学に譲渡されました。これらの蔵書をもとにして学生の研究成果が発表されています。

正宗教授

①

②

③

④

⑤

⑥

①『清心國文』第一號（1957.12.20）
②大和への郷愁（1959.10）※学科研修旅行パンフレット
③『生活語研究』第一巻（1966.11.10）
④『古典研究』第一号（1966.11.15）
⑤卒業論文要旨（2003.3.10）
⑥文学創作論・第一集『無題ドキュメント』（2004.2.17）

1956年3月、初の卒業生10名を送り出し、2022年度までの卒業生は4853名を数えます。

■ 卒業生・修了生による『清心語文』（ノートルダム清心女子大学日本語日本文学会機関誌）掲載論文題目（過去5年間）

第24号（2022年）
- 『万葉集』巻二・一六一番歌「陳雲」についての考察 ―金沢本万葉集の検討― （森 ほのか）
- 太宰治「人間失格」論 ―葉蔵の手記における〈罪〉とその変化― （小林 初音）

第23号（2021年）
- 『風土記』におけるオホナムチ・スクナビコナ説話の特徴 （末森 裕美）
- 『古事記』迩々芸命条における「天神御子」表記の役割 （笠原 奈那巳）
- 近世牛窓における神功皇后の安産信仰と桂女 （花谷 美紅）
- 太宰治「パンドラの匣」論 ―塚本虎二「われらの新秩序」の受容を中心に― （小林 初音）

第22号（2020年）
- 村上春樹『海辺のカフカ』における〈暴力〉の連鎖 ―フランツ・カフカ『流刑地にて』、アイヒマンのユダヤ人大量虐殺、田村カフカに父が与えた傷を手掛かりとして― （大岡 愛梨沙）

第21号（2019年）
- 平安勅撰集における哀傷歌の展開 （三宅 沙那）
- 司馬遼太郎「兜率天の巡礼」論 ―幻想小説に織り込まれる戦中・戦後への眼差し― （轟原 麻美）
- 村上春樹『海辺のカフカ』論 ―赤と緑のメタファー― （大岡 愛梨沙）

第20号（2018年）
- 村上春樹『海辺のカフカ』論 ―夏目漱石『抗夫』との関係性について― （大岡 愛梨沙）

『清心語文』は、大学学術機関リポジトリにてご覧いただけます

WEB卒論

本学では、リベラル・アーツ教育の理念に基づいて、すべての学科学生に、4年間の学びの総仕上げとして卒業論文を義務づけています。少人数ゼミ方式での指導、および卒業年次の口頭試問の審査を行っています。初年次演習から卒業論文に至る4年間の取り組みは、本学の特色のひとつです。WEBでは書道卒業制作展を映像で紹介しています。ぜひご覧ください。

希望を届ける 清心のクリスマス

Notre Dame Seishin University Christmas

聖夜に灯す 平和への想い

「いと高きところには栄光、神にあれ、
地には平和、御心に適う人にあれ。」
（ルカによる福音書 2章14節）

救い主イエスの誕生を羊飼いたちに知らせた
天使の群れは、神を賛美して、こう歌いました。

争い憎しみあうのではなく、ゆるしあい、人と世界を、愛でつなぐ。
そんな生き方を伝えたイエスのメッセージに想いを馳せ、
ともに平和を祈るクリスマスを過ごしましょう。

ノートルダム清心女子大学のクリスマス

2022年度のクリスマス行事は、昨年に引き続き対面で様々な行事を行うことができました。児童学科音楽研究室主催の「クリスマスファミリーコンサート」も、カリタスホールで3年振りに子どもたちを招待して開催することができました。

ウクライナでの戦火が続き、核戦争の脅威や物資・エネルギーの高騰など、私たちの生活にも戦争の足音が響きはじめる中で、一人ひとりが「平和」への想いを胸に灯しつつ、それを祈りのうちに分かち合うクリスマスとなりました。

点灯式

11月30日（水）17時～
於：ノートルダムホール本館100ND

2022年度のアドヴェント期間の最初の催しとして、点灯式が行われました。開式のことばの後、聖歌「きたれ友よ」を皆で歌い、学生の代表により旧約聖書の「イザヤ書」が朗読されました。

クリスマスツリーと馬小屋に、白色を基調としたイルミネーションが点灯され、その後、世界に平和がもたらされるよう、祈りを捧げました。

ノートルダムホール中央棟のブルーライトアップ

アドヴェントコンサート

12月12日（月）16時30分～
於：ノートルダムホール本館100ND

今年もノートルダムホール本館100ND教室にて、アドヴェントコンサートが開催されました。「キリスト教学Ⅲ」の履修生を中心に、学生・教職員有志の協力も受けながら対面形式で行われ、100NDの豊かな響きの中で、音楽をともに味わいました。

コンサートは「きよしこの夜」のハンドベル演奏から始まり、優しい音色や歌声に、心温まる時間となりました。聖書朗読も行われ、受胎告知の場面（ルカによる福音書1章26-55節）が読まれました。

クリスマスミサ

12月22日（木）16時30分～
於：ノートルダムホール本館100ND

カトリック岡山教会のパヴァン神父様の司式により、クリスマスミサが行われました。

日も落ちかけた厳かな雰囲気の中、聖歌「しずけき」とともに神父様が入堂され、ミサが始まりました。福音書の朗読ののち、神父様からの説教がありました。神父様は平和について語られ、皆神父様の説教に聞き入りました。今年のクリスマスのテーマ「聖夜に灯す 平和への想い」と響き合うお話に、学生は、ウクライナでの戦争や、未だに続く新型コロナウイルス感染症の影響のもとで過ごしたこの一年に思いを馳せ、耳を傾けました。

KEN OTAKI MUSIC FOR HOPE・OKAYAMA NDSU 2022（同窓会主催）

本学附属小学校の卒業生であるテノール歌手、大瀧賢一郎さんのクリスマスコンサートが、12月6日（火）に本学ヨゼフホール300で開催されました。大学、附属校、同窓会関係者を対象としたコンサートで、清心ファミリーが一堂に会し、大瀧さんの歌声を楽しみました。大瀧さんからは、曲にまつわるお話や、小学校時代に聖歌を歌った思い出などが語られ、児童たちとクリスマスへの想いが共有されました。

ハンドベル・コンサート（教職員有志主催）

12月23日（金）に、ヨゼフホールラウンジにて教職員有志によるハンドベル・コンサートが開催されました。クリスマスの名曲から、ドラマの主題歌まで演奏され、ラウンジの学生たちと楽しいひと時を過ごしました。

クリスマス行事の詳細や、アドヴェントコンサート、クリスマスミサ、ファミリーコンサートの映像を、大学ホームページクリスマスサイトでご覧いただけます。

国際交流
- SEISHIN AND THE WORLD -

「キリスト教学VI」新しい科目を設ける

2022年度の第２期に、「キリスト教科学VI」として新しい科目が設けられました。テーマは、「グローバル社会における教育と社会活動ーカトリック教会の奉仕の現実」です。

カトリック教会が、平和、移住や難民、人権、途上国での教育の普及など、グローバル社会の現実的な問題にどのように取り組んでいるか、ナミュールノートルダム修道女会の世界各地での活動と、日本でのカトリック教会の外国人支援という、グローバルとローカルな例を通して学ぶ機会を提供しました。

担当者は津田葵学長、小林修典教授、岡田紅理子講師ですが、アメリカやブラジルのシスターたち３名（Zoomによる講義）と岡山の３名の外国人司祭たち、そして日本語教育の専門家２名を特別講師として招きました。講義の間にはディスカッションの時間も設けられ、学生たちは活発に意見を交換し、グローバル社会の諸問題に一人ひとりがどのように貢献できるか考えることができました。

NMUN（National Model United Nations）本学デンマーク大使団が大使団奨励賞を受賞

2022年11月20日（日）～26日（土）に、模擬国連世界大会（主催：神戸市外国語大学・National Model United Nations）が開催され、11か国42大学298名の学生が参加しました。

今大会では「平和」を主なテーマとして、国際課題について議論しました。本学学生は、8名が、コロンビアとデンマークの大使団として参加しました。本学学生は、3つのCommitteeに分かれて、議題に対する決議案の文書を作っていきました。

閉会式において、本学のデンマーク大使団は、Honorable Mention Delegations Awards（大使団奨励賞※）を受賞しました。この賞は15大学が受賞し、そのうち3大学が日本の大学（東京国際大学、神戸市外国語大学、本学）でした。

参加した学生は「これまでもOKAMUNやJUEMUNに参加しましたが、世界大会とあって会議の進め方も全く違い、世界のレベルを実感しました。それは、今回NMUNに参加しないと気づけなかったことでもあります。自分の力が本当に試されたと感じました。これで満足するのではなく今後も勉強を積んで自分の能力を高めていきたいです。」と今後への思いを語りました。

※議場での議論等に積極的に参加し、貢献した大使団に対する賞。（上位20％にのみ与えられる賞）

模擬国連
関連ブログ

日韓大学生によるオンライン文学交流

2022年11月7日（月）にOHK KURUN HALLにて、本学学生が韓国・釜山外国語大学と、文学をテーマにしたオンラインでの文学交流会「日韓大学生による文学交流―坪田譲治作品から『あららのはたけ』まで―」を開催しました。

日本語日本文学科「総合探究Ⅰ」（主担当・山根知子教授）では〈ツボジョーワールド探検隊〉の学生達が主体となって、岡山の作家坪田譲治を切り口に地域社会との連携活動、SDGsへの取り組みを行っています。一方「自立力育成ゼミVI」（担当・村中李衣教授）では、韓国の文化を学び、異文化交流を進めています。この二つの授業が協働し、韓国・釜山外国語大学の学生達とともに「日韓大学生による文学交流会」を開催し、〈世界に開かれた「あらゆる人が共生する未来」の文学による実現〉をめざしました。

この活動は、岡山市が国連科学文化機関（ユネスコ）の「創造都市ネットワーク」文学分野への加盟をめざす取り組みの一環で行われたイベントでもあります。

交流会のプログラム第１～２部では、本学学生が坪田譲治作品の紙芝居やペープサートを行い、韓国の学生が韓国の昔話と伝承の朗読を披露しました。第3部では、村中李衣作『あららのはたけ』を日韓の学生がお互いに朗読しあうことで、国を越えて文学を核とした絆の構築が実現しました。第4部では、日韓の学生が文学を通したこの交流から、異なる環境で生きる者同士どんな気づきや価値観の見直しが生まれたかを率直に語り合い、共に生きる未来に向け絆を深めました。

岡山芸術交流2022パブリックプログラム「ジャーナルプロジェクト」本学学生が新聞を作成

2022年9月30日から開催された岡山芸術交流2022に、本学英語英文学科２年生の４名が参加しました。

※ジャーナルプロジェクトとは、学生グループが、岡山芸術交流2022をそれぞれの視点で取材し、新聞としてとりまとめたものを表町商店街に掲示するプロジェクトです。（岡山芸術交流公式サイトより）

同プロジェクトにおいて、学生が岡山芸術交流の会場を取材し、作品鑑賞や来場者へのインタビューを通して新聞を作成しました。学生ならではの視点で作成された新聞は、11月27日まで表町商店街に掲出されました。

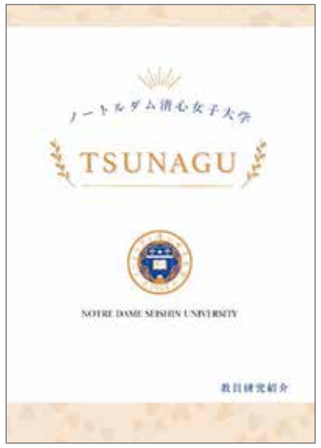
また、岡山芸術交流2022の終了後も、この取り組みを通して感じたこと、学んだことを4名の学生が学生新聞「NDSU TIMES」にしています。「NDSU TIMES」は1994年まで新聞部が発行していたもので、この取り組みを広く学生に知ってもらいたいという思いから、今回特別に復刊しました。

写真手前が本学学生の紙面「ジャーナルプロジェクト」（於 表町商店街）

地域社会とノートルダム清心女子大学をつなぐ 教員研究紹介集『TSUNAGU』

産学連携センターでは、地域社会に向けて教員の研究内容を紹介する冊子『TSUNAGU』を広報室と協働で制作しました。文学部・人間生活学部、大学院文学研究科・人間生活学研究科に所属する91名の専任教員（助手除く）の研究内容をお伝えし、共同研究や地域課題解決に役立てていただくことを目的としています。

「冊子版」は岡山県内商工会議所等に配付する予定です。特に、岡山県内の企業へ本学の研究活動の周知を図り、共同研究や受託研究等につなげていきたいと考えています。その他、中学校、高等学校の探究学習や調べ学習、自治体等の委員選定、有識者としてのメディア出演等に利用していただくことを想定しています。



デジタル版

12月 — December Event

認知症予防のためのメニューを提供

人間生活学部食品栄養学科2年の学生7名が考えた認知症予防のためのメニューが、KEIRIN HOTEL10（岡山県玉野市）で行われたイベント「認知症予防のための食事会」（12月8日開催）で提供されました。このイベントは、玉野市にある医療法人愛善会由良病院と連携したものです。

この取り組みは、由良病院内で2022年4月から開催されている認知症予防のための朝食試食会を、一般の方々にも知っていただき、認知症予防に地域で取り組んでいくことを目的として計画されました。

学生が考えた計17の料理の中から、KEIRIN HOTEL10の上月慧料理長に組み合わせていただいた2種類のメニューについて、2グループに分かれ自宅や大学で試作。料理長や病院スタッフの前で学生たちがプレゼンテーションを行い、メニューが決定しました。

参加された方からは「おいしかったよ」、「ありがとう」の言葉をたくさんいただき、学生からは「スタッフが連携してコミュニケーションをとりながらイベントを作り上げていく大変さと面白さを体験することができた」等の感想がありました。

2月 — February Event

ノートルダム清心女子大学同窓会 創立70周年記念式典・懇親会開催

2023年2月11日（土）にノートルダム清心女子大学同窓会創立70周年記念式典及び懇親会がANAクラウンプラザホテル岡山（北区駅元町15−1）で開催されました。会員約150名が参加し、70年の歴史に想いを馳せ、今後のさらなる発展を祈りました。

式典は横溝洋子同窓会長の挨拶から始まり、津田葵学長の挨拶の後、来賓代表として髙木孝子元学長のお話が続きました。その後、記念演奏会としてバイオリニストの川井郁子さんが登壇され、カーネギーホールで演奏された時のお話など、興味深いお話と共にシューベルトのアヴェ・マリアなど素晴らしい演奏を披露してくださいました。

懇親会は参加者がお互いに近況や思い出を語り合いながら会食、同窓会が制作したスクリーンに映し出される大学と同窓会の歴史を鑑賞しながら和やかに時間が過ぎていきました。最後に荒内和美実行委員長の挨拶をもって閉会となりました。

挨拶をされる横溝同窓会長

2月 — February Event

総社市と包括連携協定を締結しました。

ノートルダム清心女子大学は岡山県総社市との間で、教育・福祉の振興、人材育成、地域づくり、学術研究等の分野を中心に、包括的な連携協力を行うための協定を締結しました。

2023年2月15日（水）、総社市役所（総社市中央1-1-1）にて締結式が執り行われ、片岡聡一市長と津田葵学長が協定書を取り交わしました。本学が地方公共団体と結ぶ協定としては早島町、和気町、岡山市に次いで4番目となります。

今回の協定の特徴は、学生インターンシップと学術研究面での連携です。総社市は、多文化共生や子育て支援・ジェンダー施策に熱心に取り組まれていますが、協定に基づき、本学学生は、2023年度から総社市役所でのインターンに参加できるようになります。市役所には本学OGも数多く勤めておられますので、大切な連携の機会ともなります。また委託調査を含め、本学の研究面での実績を生かした連携協力も進められていきます。

協定書を手に 片岡総社市長（左）と津田葵学長（右）

10月
October
Event

「SPARKLE(スパークル)」の広報研修会を実施

広報室と協働している学生広報スタッフSPARKLEが、ブログや学報等の広報媒体を通して、本学学生の生き生きした活動を学内外に伝えるために、記事作成や動画撮影のノウハウをプロの方から学びました。

第1弾は、2022年10月12日(水)に、本学文学部国語国文学科(現 日本語日本文学科)の卒業生であり、現在は、株式会社ツグミの代表取締役兼コピーライターとして活躍されている平田碧先生を講師にお招きし、取材の極意について教えていただきました。取材において大切なことは、「相手意識」。取材のために、時間を作ってくださっている相手への礼儀として、取材相手についての情報収集は、欠かせないことを教えていただきました。

第2弾は、11月30日(水)に、映像ディレクターのサライジュンスケ先生を講師にお招きして「写真・動画撮影研修会」を開催しました。ご自身の映像体験も交えながら人を惹きつける写真や動画の撮り方について解説がありました。ワークショップでは二人一組になりiPadを用いて学内で実際に写真と動画を撮影し、短い動画に編集し発表。講師から講評を受けました。

11月
November
Event

学びの集大成を発表「卒論発表会」

本学のカリキュラムの特徴に全学科必修科目として「卒業論文」を課していることがあげられます。1年から1年半かけて卒業研究を行い、卒業論文を書き上げた成果を発表しました。

2022年11月に食品栄養学科、12月に人間生活学科、2023年2月に児童学科の卒業論文発表会が開催されました。

文学部は口頭試問、人間生活学部は卒業論文発表会や卒業制作展などで研究成果を発表しました。また、ゼミ単位で発表会を行う学科もあり、同ゼミやこれからゼミを選ぶ後輩たちに向けて発表しました。

学科によっては、絵画や被服などの作品制作、声楽、ピアノ演奏などがあります。2月9日(木)～12日(日)に、日本語日本文学科書道履修者による「書道卒業制作展」(岡山県生涯学習センター)が、2月7日(火)～12日(日)に、児童学科美術研究室による「卒業制作展」(天神山文化プラザ)が開催されました。

2022年度は約510本の卒業論文・制作が完成しました。卒論発表会や、書道卒業制作展の様子は、動画でも紹介しているのでぜひご覧ください。

人間生活学科卒論審査発表会

児童学科卒論発表会

WEB卒論

12月
December
Event

3年ぶり開催！ 第20回カトリック女子大学総合スポーツ競技大会

2022年12月10日(土)、11日(日)の2日間にわたり、第20回カトリック女子大学総合スポーツ競技大会が聖心女子大学(東京)にて開催されました。この大会は、同じ教育理念を根底に置く5つのカトリック女子大学(聖心女子大学、清泉女子大学、白百合女子大学、京都ノートルダム女子大学、本学)が、スポーツを通して競い合うとともに、大学相互間の輪を広げ連携を深めることを願って毎年開催されているものです。

新型コロナウイルス感染症の影響により、3年ぶりの開催となった今回は、どの種目もメンバー同士で声を掛け合い、真剣でありながらものびのびとプレイし、とても楽しんでいるようでした。また、フレンドリーマッチでは他大学の学生と交流を深めるよい機会となったようで、終了後には一緒に写真を撮る姿や、「また来年会おうね！」と再会を誓う姿なども見られました。

バドミントンとバスケットボールでは第2位、バレーボールでは見事優勝し、同率1位で総合優勝に輝きました。選手の皆様おめでとうございます。2023年度は本学開催の予定です。

総合成績

総合優勝	聖心女子大学
総合優勝	ノートルダム清心女子大学(同率1位)
総合優勝	京都ノートルダム女子大学(同率1位)
第4位	白百合女子大学
第5位	清泉女子大学

12月
December
Event

大学院オープンルームで学部生を案内

2022年12月7日(水)、大学院文学研究科(日本語日本文学専攻、英語英米文学専攻、社会文化学専攻)が、大学院についてもっと知ってもらおうという趣旨のもと、本学学部生対象に院生室開放企画「オープンルーム」を開催しました。

当日は院生が院生室の案内をしたり、学部生からの質問などに答えたりしました。今回で3回目の開催となりました。また、英語英米文学専攻では、2023年4月から開講される博士前期課程※の「実践翻訳」と、新たに設置する博士後期課程のカリキュラムの説明も行われました。文学研究科では、今後も引き続きこのような機会を設けたいと考えています。

今春開設される大学院英語英米文学専攻博士後期課程は、英語英文学分野では岡山で初めての開設となります。

※博士後期課程の開設に伴い、既設の修士課程は博士前期課程に変更となります。英語英米文学専攻博士後期課程については大学のWEBサイトをぜひご覧ください。

学外活動

文学部英語英文学科3年 守時実香さん

「WORLD SKATE GAMES 2022 Argentina」(世界選手権大会)
(アルゼンチンブエノスアイレス)

インラインフリースタイル クラシックスラローム
金メダル(2022/11/4)

インラインフリースタイル バトルスラローム
銀メダル(2022/11/6)

インラインフリースタイル日本女子初の金メダル

人間生活学部人間生活学科1年 岡本麻央さん(OSKスポーツクラブ)

「SUZUKI WORLD CUP 2022
第33回エアロビック世界大会」(東京都)
年代別トリオ部門3位(2022/12/14)

2023年4月22・23日に開催される「SUZUKI WORLD CUP 2023 第34回エアロビック世界大会」(東京都)の日本代表選手(グループ部門)に出場予定

写真左:岡本さん

人間生活学部食品栄養学科1年 片山結愛(ゆめ)さん

「ZENRIN Group 第18回 日本ろう者バドミントン選手権大会」
(福岡県北九州市)
女子シングルス 優勝/女子ダブルス 優勝(2023/1/14〜15)

「第6回 世界デフバドミントン選手権」
(2023/7/13〜25ブラジル開催予定)日本代表選手として出場内定

また、この3名の学生は、2023年2月25日(土)に「第22回岡山市人見絹枝スポーツ顕彰」の表彰式にて、特別スポーツ栄誉賞とスポーツ栄誉賞を受賞しました。

特別スポーツ栄誉賞
インラインスケート　守時実香さん

スポーツ栄誉賞
デフバドミントン(個人)　片山結愛さん
エアロビック(団体 OSKスポーツクラブ)　岡本麻央さん

学外活動

池田尚子准教授「第6回 夢ニコンクール」声楽部門独唱(日本歌曲)第2位受賞

2022年12月4日(日)に瀬戸内市保健福祉センターゆめトピア長船夢いっぱいホールにて開催された「第6回 夢ニコンクール」声楽部門独唱(日本歌曲)本選で、人間生活学部児童学科 池田尚子准教授が第2位を受賞しました。

2024年4月、国際文化学部及び情報デザイン学部の設置を構想しています。

多様化するグローバル時代の諸問題に取り組み、社会の変革に貢献する人材を育成するため、国際文化学部に国際文化学科(仮称)を、情報デザイン学部には情報デザイン学科(仮称)を配置する予定です。設置計画は予定であり、変更となる場合があります。詳細は次号210号でお知らせします。(2023年3月1日現在)

建築を学ぶ高校生対象 校舎見学ツアーを実施

2022年9月1日(木)に岡山県立岡山工業高等学校、11月17日(木)に岡山市立岡山後楽館高等学校の建築科や、建築関連の授業を履修している生徒を対象に、校舎見学ツアーを実施しました。高等学校から、近隣にある登録有形文化財を生徒の学びに活用させてもらいたいという要望があり実現したものです。上田恭嗣名誉教授(建築学)が、アントニン・レーモンド設計のノートルダムホール本館・東棟(1929年)や、村上徹設計のノートルダムホール中央棟(1995年)について解説しました。生徒さんからは「西洋の建物が見学できて新鮮だった」「建物に入ると落ち着いた雰囲気を感じた」と感想をいただきました。

地域社会、近隣の方との文化交流はもとより、高等学校の学習にも利用していただけるよう今後も校舎見学ツアーを企画していく予定です。

解説する上田名誉教授(2022/11/17)

2022年度研修会

2023年1月19日(木)に、鳥谷憲司氏(ヒワサキコンピューターシステム株式会社フェロー)を講師にお招きして、SD研修会「デジタルトランスフォーメーション 現状と実践事例紹介〜大学におけるDXに向けた取組 そしてSDGsへ〜」(SD等推進委員会主催 事務システム検討委員会合同企画)を開催しました。DXの本質を理解し、他大学の事例を知ることにより、本学のDXについて考えていく契機となりました。

また、2022年11月にオンラインによる「研究倫理・コンプライアンス研修」を実施しました。これは、「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に基づき、適切かつ安心して研究活動を行うために、広く研究倫理に関する知識を持つための研修です。

鳥谷氏による講演(1月19日実施SD研修会)

編集後記

2022年度から本格的に対面授業が始まり、11月には3年振りの大学祭が開催されました。コロナウイルス感染症対策を徹底し、一般の方々にも多くご来場いただき、ようやくキャンパスが活気づいてきたように感じます。また、スポーツや芸術分野での活躍が目覚ましく入賞の報告を聞くのを楽しみにしています。発行にあたりご協力くださいました卒業生、在学生、教職員の皆様に感謝いたします。

(広報室)